

高校生活で養う課題意識・コミュニケーション力 これからの推薦・AO入試指導

推薦・AO入試では、リーダーシップは重要視される項目の一つです。アドミッションポリシーや求める学生像にも盛り込んでいる大学が多数あります。今回は、多様なリーダーシップとリーダー像に迫り、高校生活の中でいかに育むかについて考えていきます。

藤岡慎二

株式会社
Prima pinguino
代表取締役

第7回

高校生活で育む リーダーシップ

リーダーシップというと、どのようなイメージがありますか。清廉潔白で、発言力があり、質実剛健、漂う緊張感：周囲の人に聞いてみると、イメージが固定化されています。どんなリーダーが理想ですか？と聞くと「様に「意見に耳を傾けてくれる」と。リーダーは意見を聞かないと思われがちなのでしょう。このリーダー像の固定化は、生徒のリーダーシップ醸成の足かせとなります。多様なリーダー像を知ることが、生徒のリーダーとしての可能性を引き出すきっかけとなるでしょう。

推薦・AO入試で求められる リーダーシップ

国際基督教大学のAO入試では出願書類に「高等学校在学中に、学校の内外で比較的長期（少なくとも2、3週間以上）にわたり参加した教科外の諸活動を通して、指導者（リ

ダー）としての自分の資質をどのように評価することになったかを、的確に分析し800字以内で述べてください」というものがあります。

慶應義塾大学環境情報学部の入学者受入基準（アドミッションポリシー）には、以下のような記述があります。「ひとつの学問分野にとらわれることなく幅広い視野を持ち、地球規模で問題発見・解決できる創造者でありリーダーを目指そうとする学生を歓迎します。（略）あらゆるリソースを積極的に活用し、『自らの手で未来を拓く力を磨いてほしい』と期待しています」

推薦・AO入試ではリーダーシップは必ずと言っていいほど問われるのです。

リーダーシップと リーダーの違い

リーダーシップとは何か。定義に関



ふじおか・しんじ●1975年生まれ慶應義塾大学大学院修了。数学や生物の大学受験対策を教える塾講師を経て、大学院でキャリア教育の重要性に気付き、研究を開始。小学生から社会人までを対象とした現場指導経験を有し、推薦・AO入試対策、社会人基礎力の指導や教材・プログラム開発を大手大学受験予備校や高校・大学で行う。島根県立隠岐島前高校をはじめとし、行政と協業し教育を通じた地方創生に取り組む。現在、北海道から沖縄までの高校魅力化プロジェクトに参画、高校連携型の公営塾を運営。

する議論は今でも続いており、答えがあるわけではありません。定義には600以上あると言われてもいますが、大学受験のレベルではリーダーシップとは「人に良い影響を及ぼし、人を行動させる素養」と言えます。

リーダーシップとリーダーは混同される場合がありますが、リーダーシップは素養であり、リーダーは立場です。リーダーシップが多様であればリーダー像も多様だ、ということになります（参照：図1）。多様なリーダーシップを理解すれば、多様なリーダー像について理解できるようになります。

リーダーシップとリーダーに関する誤解として、リーダーシップとはまとめる力であり、リーダーとはまとめる人だという意見が散見されます。間違っはいいませんが、それだけではありません。

例えば、図2、3に示したように牽引型リーダーのリーダーシップとマネ

図2 リーダーシップに必要な要素



図3

	牽引型	マネージャー型
ホンダ	本田 宗一郎	藤沢武夫
ソニー	井深 大	盛田昭夫
Google	ラリー・ペイジ サーゲイ・ブリン	エリック・シュミット博士
戦国時代	武田信玄	山本勘助

図1 多様なリーダーシップの例

① 将来のビジョンを示す	誰もが共感するビジョン(あるべき姿)を描き、人を鼓舞する、動かす
② 具体的な計画を策定する	ビジョンに行き着くための具体的な計画や戦略を立てる
③ チームの決まりごとを作る	チームの規範や規定を定めて、遵守させる
④ 自ら動く	自らが率先して動き、メンバーを鼓舞し、牽引する
⑤ メンバーのやる気を引き出す・維持する	綿密なコミュニケーション(コーチング)を通してメンバーの望んでいることを引き出し、言語化し、やる気を維持する
⑥ 常に理念・価値観を言い続ける	日々の業務で忘れがちな理念や価値観を思い出させ、初心に還す
⑦ 人を巻き込んでいく	チームの目標達成のために必要な人材を連れてくる、巻き込む
⑧ 雰囲気を作る	チームの仕事がうまくいくように、良い雰囲気にする。ムードメーカー
⑨ チームを維持する	チームのメンバー一人ひとりに居場所と出番を与え、適切に評価し、チームの質を維持する

「もしドラ」の主人公は、マネージャー型リーダーであり、あの作品もリーダーとリーダーシップの違いを描いたものなのです。

多様なリーダーシップを 高校生活で身につける

リーダーやリーダーシップに必要な力はおわかりのように、高校生活で十分に身につけられるものです。推薦・AO入試対策というと、学校外で

ボランティア活動だとか、学生イベントに参加すると有利と言われているかもしれません。もちろん、様々な活動に参加する積極性は必要でしょう。しかし、単発のイベントや活動よりも、長く密な高校での人間関係の中で、どのように他人や組織と向き合い、どのように振る舞ってきたかが重要で、部活や委員会活動、修学旅行、学園祭、体育祭、日常の高校生活は、他人や組織と長い期間、密に関わり合う絶好の機会です。

入試においては人間関係の中で、自身の居場所と出番を認識したうえで、どのようなリーダーシップを発揮して、人に良い影響を及ぼし、人に行動させたのかを語るストーリーが重要になります。

もう一つ大切なことは言語化です。何に対し、どのように考え、行動し、人に良い影響を及ぼし、人に行動させたのかを振り返り、言語化させましょう。多様なリーダーシップのあり方を伝え、生徒が「あ、こういうのがリーダーシップなんだ」と認識すれば、しめたものです。本人が気づかず意識できないことは伸ばせませんが、気づき意識できることは発揮でき、伸ばせますし、アピールもできるのです。

自身のリーダーシップに気づき、そ

のリーダーシップを発揮したエピソードと共に語り、相手に伝われば、「この生徒はリーダーシップがある」と評価してくれるでしょう。そして何よりも、生徒は他人と協働する自信をもつのではないのでしょうか。

困難な場面でも 人物の本性が見える

私自身、起業家として経験がありますが、投資家が若いベンチャー起業家に投資するか否かの判断をするとき、面談でわざと困難な状況を作る場合があります。もしベンチャー企業のメンバーがチームで面談に来た場合はチームをわざと怒らせるのです。チームのメンバーが怒り、その現場を立ち去ろうとしたときにリーダーがいかなるリーダーシップを発揮してメンバーを諫めるかを見ているのです。

どんなに優秀な商品やビジネスモデルがあっても、リーダーにリーダーシップが無ければ、やがて離散してしまいます。人間関係の修羅場を何度もくぐり抜けてきた人物こそ、リーダーシップを身につけるものです。リーダーシップを育む秘訣は、高校生活において様々な困難や課題、壁に立ち向かわせ、さらに、その体験を言語化させることです。